

札幌市 えほん図書館

SAPPORO
PICTURE BOOK
LIBRARY

ブックリスト

発行日:平成28年(2016年)11月7日

発行:札幌市えほん図書館

〒003-8612 札幌市白石区南郷通1丁目南8-1 白石区複合庁舎6階

電話:011-866-4646 FAX:011-866-4600

SAPPORO



札幌市えほん図書館

乳幼児
向け
(0~5歳)

0歳

は じ め に

子どもたちが絵本と出会うきっかけづくりとして、

絵本のブックリストを作成しました。

絵本は、言葉がわからない赤ちゃんのときからでも、

遊びの一つとして十分に楽しむことができ、

子どもたちの成長を支えてくれます。

子どもたちは絵本を通じて、

親や祖父母などの周囲の人々との交流を深めながら、

豊かな絵本の世界を体験し、

多くのものに興味や関心を広げ、

より大きな世界を感じ取っていくことでしょう。

絵本が子どもたちにとってかけがえのないものとなることを願っています。

このブックリストで紹介した絵本のほかにも、

子どもたちが楽しめる絵本はたくさんあります。

このリストの絵本をきっかけとして、

いろいろな絵本を手にとってみてください。



『いない いない ばあ』

文／松谷 みよ子 絵／瀬川 康男

【出版社】童心社 【初版年月】1967.4



あそび

赤ちゃんをあやす定番のいないいないばあ遊び。この絵本ではいろいろな動物が「いないいないばあ」をしてくれます。最後はあなたも「いないいないばあ」。

1967年に初版が発売されて以来、半世紀にわたって読み継がれているこの絵本は、赤ちゃんにとって良い絵本との出会いとなり、遊びとの出会いとなる、文句なしの定番ロングセラーです。「松谷みよ子あかちゃんの本」シリーズの1冊。



『おててがでたよ』

作／林 明子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1986.6



せいふつ

表紙はふっくらとした赤ちゃんです。この赤ちゃんが全身オレンジ色のシャツにくるまれ、姿が見えないところから始まります。手が出て、頭が出て、赤ちゃんもにっこり笑顔。「おてて」「あんよ」など、出てくる部分を指差しながら読み聞かせを行うと良いでしょう。丁寧に描かれた赤ちゃんの表情やしぐさにも引き込まれる1冊です。

シリーズ「くつくつあるけのほん 2」



『おてて たっち』

作／武内 祐人

【出版社】くもん出版 【初版年月】2009.10



コミュニケーション

キツネとクマ、トラとラッコなど、いろいろな動物がおててをたっち。みんなでまねっこ！たくさんさんの友達とたっち。最後に女の子が、パパとママとたっち。繰り返されるたっちに笑顔が広がり、楽しい親子のふれあいが伝わります。仕事から帰ってきたお父さんが女の子とたっちする姿がほほえましく、ほのぼのとします。誰かとたっちするときの、うれしい気持ちがあふれている絵本です。



『がたん ごとん がたん ごとん』

作／安西 水丸

【出版社】福音館書店 【初版年月】1987.6



のリズム

ほにゅうびんやコップ、スプーンが「のせてくださーい」と、順番にきかんしゃに乗ります。繰り返すと、赤ちゃんの身近なものが出てくることが、赤ちゃん絵本にとってとても大切です。はっきりした形でわかりやすく、赤ちゃんにも見やすい絵です。赤ちゃんを膝に乗せて、一緒に「がたんごとん がたんごとん」とリズムをつけて読んであげて下さいね。



『きゅっ きゅっ きゅっ』

作／林 明子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1986.6



ねずみさんがこぼしたスープを「きゅっきゅっきゅっ」と赤ちゃんが拭いてあげます。あれ、うさぎさん、くまさんも。赤ちゃんは同じ動作を繰り返すのが大好きです。「いただきます」と「ごちそうさま」、こぼしたものを拭いてあげることなど、食事のマナーを楽しみながら身に付けられたらいいですね。お口の周りにこぼした赤ちゃんには、お母さんが「きゅっきゅっきゅっ」。シリーズ「くつつくつあるけのほん 3」



『くつつくつあるけ』

作／林 明子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1986.6



小さな靴が散歩に出かけます。歩けるようになった赤ちゃんが、おでかけを楽しみにしている気持ちが、黄色い靴ひもから伝わってきます。「ぱたぱた とんとん びよんびよん」楽しい擬音・テンポのよい文章・はっきりとした色彩で、靴と一緒に自分も散歩をしている気分に。歩いたり、走ったり、ころんだりした靴が遊び疲れて眠っている裏表紙は、赤ちゃんの楽しかった一日を想像させます。シリーズ「くつつくつあるけのほん 1」



『くつついた』

作・絵／三浦 太郎

【出版社】こぐま社 【初版年月】2005.8



きんぎょさん、あひるさん、ぞうさんがページをめくるたびに仲良くくつつきます！絵も文もとてもシンプルで、赤ちゃんの読み聞かせにぴったり。作者自身の0歳のお子さんとの触れ合いの中で生まれたというこの絵本は、みんなが笑顔で幸せな気持ちになれるので、親子で触れ合いながら読み聞かせたい1冊です。最後は、もちろんお子さんと一緒に「くつついた」！



『くらくらい』

文／はせがわ せつこ 絵／やぎゅう げんいちろう

【出版社】福音館書店 【初版年月】2006.10



「まっくら くら くら くらーい くらい でんきを つけて ちょうだい」電気がついたら誰がいるかな？繰り返しが楽しい赤ちゃん絵本。いないいないばあ遊びと同じように遊んだり、シルエットで当てっこ遊びしたりできます。『おでかけばいばい』『めんめんばあ』の3冊で「おでかけばいばいのほん」シリーズとして刊行されています。同じキャラクターが出てくるので、ぜひセットで読んでみてください。



『しましまぐるぐる』

絵／かしわら あきお

【出版社】学研教育出版 【初版年月】2009.4



鮮やかな色とはっきりとしたしましまぐるぐるの模様で、視力の弱い赤ちゃんでも見やすい絵になっています。模様や動物もおしゃれにデザインされていて、言葉も単純でリズムカル。角の丸い厚紙でできた丈夫な絵本なので、破けず、めくりやすく、安全です。読んであげるときは、言葉や模様に合わせて動かしながら読んでみると、さらに楽しくなりますよ！



『じゃあじゃあ びりびり』

作／まつい のりこ

【出版社】偕成社 【初版年月】1983.8



みず、じゃあじゃあ。かみ、びりびり。赤ちゃんの大好きなオノマトペがたくさん詰まった絵本です。言葉が分からなくても、言っている意味は分かるもの。ほら「ぶーぶー」だね、こっちは「わんわん」だよ、とコミュニケーションを取りながら読んでみてください。子どもとの共通の言葉がどんどん増えていきます。「まついのりこあかちゃんのほん」シリーズの1冊です。



『ばいばい できるかな』

作／きむら ゆういち

【出版社】偕成社 【初版年月】2013.4



楽しく遊んでいたみんなと「また明日も遊ぼうね」の気持ちを込めて「ばいばい」のごあいさつ。しかけのページをめくれば、遊んでいた動物たちが「ばいばい またね～」と手をあげます。それを見て、赤ちゃんも「ばいばい」を。赤ちゃんの日常は全てが遊びです。「あかちゃんのおそびえほん」シリーズの13弾。このシリーズは、親子でスキップをしながらマナーや生活のリズムを学ぶことができます。



『もう おきるかな?』

文／まつの まさこ 絵／やぶうち まさゆき

【出版社】福音館書店 【初版年月】1998.6



「ねこねこ よくねているね。もうおきるかな?」「あー、おきた!」。いぬやうさぎなど、子どもが大好きな動物がたくさん出てきます。繰り返しが心地よく、読んでいると0歳の子でもでも反応することがあります。「あー、おきた!」で笑顔が見られることも。赤ちゃんには写実的で絵や形がはっきりわかる絵がおすすめ。ボードブック(厚紙絵本)で角も丸いので安心です。



『もこもこもこ』

作／谷川 俊太郎 絵／元永 定正

【出版社】文研出版 【初版年月】1977.4



「もこもこ」「にょき」といったふしぎな擬音とグラデーションのある色鮮やかな絵で構成されたロングセラー絵本。「しーん」を読み上げると子どもたちはしーんと静まり、「もこ」ではびっくり!子どもたちが楽しむ様子里に大人も心温まります。同じ元永定正さんと谷川俊太郎さんのタッグの『もけらもけら』もおおすすめです。



『やさいさん』

作／tupera tupera

【出版社】学研教育出版 【初版年月】2010.7



土に埋まったやさいのかくれんぼ。「やさいさん やさいさん だあれ」。当てっこをしながら「すっぱーん」と豪快に抜けるやさいに子どもの笑顔がはじけます。にんじん・じゃがいも・だいこんなど、やさいが次々に現れ、そのリズム感にどんどん引き込まれるしかけ絵本です。丁寧に描かれているやさいの葉に「さて次は何かな」とわくわく。同じ作者の『くだものさん』も楽しいですよ。

1歳



『おさじさん』

文／松谷 みよ子 絵／東光寺 啓
【出版社】童心社 【初版年月】1969.8



うさぎのぼうやは熱いおかゆを上手に食べられません。さあ、おさじさんの出番です。食器がうまく使えなかったり、食器を使うのを嫌がったりする子どもには、この絵本のようにおさじさんに手伝ってもらおう、と伝えると食事の時間を楽しく過ごせるでしょう。「松谷みよ子あかちゃんの本」シリーズの1冊。



『おつきさまこんばんは』

作／林 明子
【出版社】福音館書店 【初版年月】1986.6



やさしい表情のおつきさまが夜空にのぼり「こんばんは」。子どもはおつきさまが雲に隠れるとおつきさまと同じように不安な表情になり、満面の笑顔のおつきさまが現れると同じくはじけるような笑顔で喜びます。実際のおつきさまを指さしてあげると、月や自然への興味を深められます。読み聞かせられた子どもの喜びの笑顔に、大人も喜びを得られる味わい深い絵本です。シリーズ「くつつあるけのほん 4」



『おふろでちゃぷちゃぷ』

文／松谷 みよ子 絵／岩崎 ちひろ
【出版社】童心社 【初版年月】1970.5



タオルを持って、せっけんを持って、あひるちゃんが行く「いいところ」はお風呂。楽しいところだよ、早く早く、と呼びかけます。待って待ってと言いながらセーターを脱いで、ズボンを脱いで、パンツを脱いで。はだかんぼになったら、さあ、大好きなお風呂です。お風呂を嫌がる子ども、これを読めば楽しみになるかもしれません。「松谷みよ子あかちゃんの本」シリーズの1冊。



『おやおや、おやさい』

文／石津 ちひろ 絵／山村 浩二
【出版社】福音館書店 【初版年月】2010.6



野菜がマラソンをしています。そらまめ、パセリ、かぼちゃ、はくさい、とうがらし…。沿道で応援している野菜もたくさんいます。リズムのいい言葉に、リアルだけれど個性豊かな野菜たち。今まで苦手だった野菜を、ちょっと見直すいい機会になるかもしれません。さて、一等賞はどの野菜？
『くだものだもの』『おかしなおかし』も併せてどうぞ。



『かにこちゃん』

作／きしだ えりこ 絵／ほりうち せいいち
【出版社】くもん出版 【初版年月】2008.4



海が大好きなかにの「かにこちゃん」。「おおきい なみは どどどど ざぶーん」。波と海の色が素敵です。かにの赤い色が目を引き、色鮮やかな絵で「おはよう おひさま」「さよーなら おひさま」と、かにこちゃんの一日を描いています。絵は堀内誠一さん。初出は1967年で、こちらは加筆・修正された版ですが、50年近く前に描かれたとは思えない新鮮な色彩とデザインをお楽しみください。

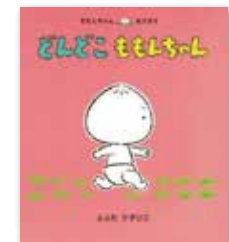


『だるまさんが』

作／かがくい ひろし
【出版社】ブロンズ新社 【初版年月】2008.1



だるまさんが「どてっ」と転んだり、「ぴろーん」と伸びたり…泣いている子も思わず笑顔になる絵本。読み聞かせでは、お母さんの膝の上の赤ちゃんも声を立てて笑います。子どもたちがこの本を心底楽しんでる様子を見て、大人も笑顔に。続く『だるまさんの』『だるまさんと』も併せてどうぞ。子どもの笑顔を見たい時におすすめします。



『どんどこもんちゃん』

作・絵／とよた かずひこ
【出版社】童心社 【初版年月】2001.9



ももんちゃんは急いでいます。大きなくまさんとおせんぼされても、下り坂で転んで頭を打っても、目に涙をためて「どんどこ どんどこ」急いでいます。そして、最後に「どーん」と飛び込んだ先には…？リズムカルな文章と言葉の響きが楽しい「ももんちゃん あそぼう」シリーズ。最後にほっとできて、心温まる絵本です。



『ねないこ だれだ』

作・絵／せな けいこ
【出版社】福音館書店 【初版年月】1969.11



「こんなじかんにおきているのはだれだ？」子どもはこわいもの見たさでおばけに興味深々。子どもの喜びの感情の育みには、どきどきする「こわさ」の体験も大切です。色使いがはっきりしており、ちぎり絵の美しさが際立ちます。「いやだいやだの絵本」シリーズの1冊。しつけ目的だけでなく、こわいながらも、かわいらしいおばけの絵を、親子で楽しみながら読んでみましょう。



『のりものいっぱい』

作・絵／柳原 良平
【出版社】こぐま社 【初版年月】2003.1



小さな子どもにも認識しやすいシンプルな配色で、タクシー、モノレール、新幹線、ヘリコプターなど、いろいろな乗り物が紹介されています。どの乗り物にも目が付いていて、その豊かな表情に子どもは好奇心を湧き立たせます。最後の大きな客船が出発する場面では、みんなで一緒に「ばいばーい」。同じ作者の『かおかおどんなかお』『やさいだいすき』も、赤ちゃんから楽しめる身の回りの物を取り上げた作品なので、併せてどうぞ。



『はーい!』

著／みやにし たつや

【出版社】アリス館 【初版年月】2010.3



コミュニケーション

名前を呼ばれて「はーい」。ネコ、イヌ、なんとおばけまで!それぞれお返事します。お返事するページが縦開きのしかけになっており、「はーい」と共に伸びるページに子どもは大喜びです。ぜひ、赤ちゃんの名前もたくさん呼んであげてください。赤ちゃんは名前を呼ばれて、大人は赤ちゃんの笑顔が見られて、お互いに嬉しくなる絵本です。



『ぴょーん』

作・絵／まつおか たつひで

【出版社】ポプラ社 【初版年月】2000.6



あそび

かえるがぴょーん、こねこがぴょーん、ぱったがぴょーん、かたつむりも?!そしてあなたも、みんなでぴょーん!赤ちゃんに読むときは「ぴょーん」で高い高いをしてあげて、ジャンプができるようになったら自分の力でぴょーん!科学絵本でおなじみの松岡 達英さんによる、読み聞かせて盛り上がる楽しい1冊です。



『まるさんかくぞう』

作／及川 賢治 作／竹内 繭子

【出版社】文溪堂 【初版年月】2008.6



ことば・かたち

まる さんかく …ぞう?! ぞう ぞう しかく?!形だけでなく、動物や乗り物も織り交ぜて、色や形の面白さとリズムの良い言葉の連なりを親子で楽しめる絵本です。初めのうちは絵を指さしてあげながら読むと、子どもは言葉と絵のつながりを早く理解できるようになるはずです。0歳から読めますが、知育絵本として、赤ちゃん絵本からのステップアップにも良い1冊。



『れいぞうこ』

作・絵／新井 洋行

【出版社】偕成社 【初版年月】2009.4



せいけつ

本そのものが冷蔵庫の形になっているボードブック(厚紙絵本)。冷蔵庫から名前を呼ばれた食材が「はーい」とお返事しながら次々と出てきます。呼びかけに答える、というやり取りを子どもと一緒に楽しむことができ、「とっとと」や「べたべた」などの擬音もリズムカルです。「あけて・あけてえほん」シリーズで『おふろ』『といれ』などもありますので併せて、どうぞ。

児童文学へのいざない①

『おいしいのぼうけん』

作／ふるた たるひ 絵／たばた せいいち 【出版社】童心社 【初版年月】1974.11

さくら保育園にはかわいいものが二つ。ひとつはおいしいで、もうひとつはねずみばあさん!? 1974年に出版されてから、常に子ども達に愛されてきたロングセラー。絵本として紹介されることも多いのですが、比較的文章の長いお話です。

この本を読み聞かせると、子どもは手に汗握る冒険談に引き込まれ、最後の心温まるラストに安心するまで、集中して聞いてくれます。その後、子どもは、自分で黙読し始め、繰り返し読む思い出深い本になることでしょう。物語から児童文学の世界へのいざないとして、欠かせない1冊です。



2歳



『おにぎりくんがね・・・』

作・絵／とよた かずひこ

【出版社】童心社 【初版年月】2008.9



たべもの

「おいしい ともだち」シリーズの第1弾。三つのおにぎりくんたちが「にぎにぎ ぎゅっ ぎゅっ」と言いながら、自分でおにぎりを作っていきます。具も入れて、のりも巻いて完成しますが、どれがどれだかわかんなくなっちゃいました!でも、そこはこのシリーズの決め台詞「しんばい ごむよう!」で見事解決してくれます。



『ぎゅっ』

作・絵／ジェズ・オールバラ

【出版社】徳間書店 【初版年月】2000.11



コミュニケーション

おさるのジョジョは一人でお散歩。ゾウやカメレオンやヘビの親子が「ぎゅっ」をしているところを見て、だんだん寂しくなっています。ジョジョも「ぎゅっ」がしたいけれど、ママがいなくて泣きそうです。他の動物たちも心配そう。ほとんどのセリフは「ぎゅっ」ですが、それだけでも表情豊かな絵で物語の展開が分かります。最後は、ママがやってきて「ぎゅっ」。心温まる絵本です。ぜひ、お子さんと「ぎゅっ」してみてくださいね。



『きんぎょが にげた』

作／五味 太郎

【出版社】福音館書店 【初版年月】1982.8



あそび

さあ、大変。金魚鉢から金魚が逃げてしまいました。金魚はカーテンの模様になったり、キャンディーの瓶の中に紛れたりして逃げていきます。「もうにげないよ」と最後に行った場所はどこでしょうか?金魚の行き先を探しながら楽しめる、双方向性のある絵本です。どうして金魚は逃げ出したのでしょうか?



『くだもの』

作／平山 和子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1981.10



たべもの

本物以上に本物のように見えるおいしいそうな果物の絵。スイカは切って、りんごはむいて、「はいどうぞ」と差し出されます。それぞれの果物を差し出す人は、旬の季節に合わせた服装で描かれています。身の回りのものについて学んでいく時期にぴったりな絵本。一緒に食べるまねをしても楽しめます。まさに「おいしい」1冊です。



『しっぽがびん』

作／おくはら ゆめ
【出版社】風濤社 【初版年月】2015.1



ことばあそび

きつねさんも、ねこさんも、かめさんも?!「しっぽがびん しっぽがたらし ぴんもたらしもできるのよ」鮮やかな色で描かれた奥原 夢さんの素朴で味のある絵と「びん びん たらし びん たらし」という繰り返しの言葉のリズミカルな語感が楽しい絵本です。まるで歌うように読むことができます。一度覚えたら思わず口ずさんでしまうこと請け合いです。



『しろくまちゃんのほっとけーき』

著／わかやま けん
【出版社】こぐま社 【初版年月】1972.10



たべもの

しろくまちゃんが作っているのはホットケーキ。材料を混ぜて、生地を焼いて…。混ぜるときには粉がふわふわ、ボールがごとごと。焼いているときの音は、びちびち、ぶつぶつ、ふくふくと、とってもおいしそう。きっと作ってみたいくなりますよ。親子ではじめてのお料理に、楽しいおやつ時間に、おいしいホットケーキはいかがですか。「こぐまちゃんえほん」シリーズ。「てんじつきさわるえほん」もあります。



『ぞうくんのさんぽ』

作・絵／なかの ひろたか レタリング／なかの まさたか
【出版社】福音館書店 【初版年月】1977.4



どうぶつ

ぞうくんはお散歩。かばくを「いっしょにいこう」と誘うと「のせてくれたらね」。次に会ったのはわにくん。「それじゃあ ばくものせてよ」。それからかめくんもやって来て…。気の優しいぞうくんののんびりした感じがほのぼのとしていて、何度も読みたくなります。最後は「ばっしゃーん」。水遊びの時期に読むのもおすすめです。読み聞かせでも子どもたちの笑いがはじけますよ。他にも「ぞうくん」のシリーズが出版されています。



『でんしゃにのって』

著／とよた かずひこ
【出版社】アリス館 【初版年月】1997.6



のりもの

うららちゃんは電車で乗って一人でおばあちゃんのところへ出かけます。次の駅で乗り込んだのは…。電車で次々乗り込んでくる動物たちとうららちゃんの様子がほんわかします。うららちゃんは無事におばあちゃんのいる「ここだえき」に着けるかな?他に『ポートにのって』『さんりんしゃにのって』などの「うららちゃんののりものえほん」シリーズが刊行されています。



『にんじんさんがあかいわけ』

文／松谷 みよ子 絵／ひらやま えいぞう
【出版社】童心社 【初版年月】1989.1



たべもの

どうしてにんじんが赤いのか、ごぼうが黒いのか、だいこんが白いのか知っていますか?実はこんな訳があるのです。身近な野菜に対するなぜ?という疑問に優しい口調で答える昔ながらの物語。この物語にある答えも子どもの想像が広がって楽しいですね。読み終わったら、ぜひ一緒に台所へ!



『ぴよちゃんのかくれんぼ』

作・絵／いりやま さとし
【出版社】学研 【初版年月】2003.4



コミュニケーション

ひよこのぴよちゃんは、友達とかくれんぼ。最初のおにはぴよちゃんです。みんなは、どこに隠れたか当ててみましょう。ちらっと見えている動物が、しかけの中から出てきます。「だれかしら?」「もう いいかい?」「まあだだよ」の合言葉を、親子で一緒に言いながら楽しんでください。子どもは、かくれんぼが大好きです。



『へんなかお』

著／大森 裕子
【出版社】白泉社 【初版年月】2011.3



あそび

『いないいいないばあ』と似ていますが、こちらはなんと動物たちの変顔!何匹もの動物たちが、白目をむいたり、舌を出したり、膨らんだり、伸びたりと、それぞれ思いきった変な顔を見せてくれます。おすまししたかわいい顔からの変貌ぶりには爆笑必至。一緒に変顔の真似をしながら、親子でのコミュニケーションを楽しんでください。最後のページにも面白いしかけがあります。



『まるまるまるのほん』

作／エルヴェ・テュレ 訳／谷川 俊太郎
【出版社】ポプラ社 【初版年月】2010.6



コミュニケーション

描かれているのは、シンプルなまる。このまるをクリックしたり、こすったり、本を揺すったりすると、増えたり、動いたり、大きくなったり!あなたの操作で色や形が変わってきます!フランスの絵本作家エルヴェ・テュレのシンプルな絵と谷川俊太郎のセンスあふれる邦訳による、アナログだけどデジタルな新感覚の参加型絵本。「絵本を読む」という概念から離れて、この絵本で楽しく遊んでみましょう!



『りんごころころ』

文／松谷 みよ子 絵／とよた かずひこ
【出版社】童心社 【初版年月】2001.1



たべもの

大きなりんごの木は、だれも実を採ってくれないと泣いています。ハナコちゃんが採ってあげると、落ちたりんごはみんなころころ転がって、動物に食べられたり、ジュースや離乳食やパイになったりして、いろんな人の元へ。ハナコちゃんも持って帰れるかな?素朴な絵は温かく、りんごの鮮やかな赤い色に目を引かれます。読んでいると、真っ赤なりんごが食べたくなる絵本です。



『わにわにのおふろ』

文／小風 さち 絵／山口 マオ
【出版社】福音館書店 【初版年月】2004.10



どうぶつ

リアルで迫力のある、わにわににですが、なんともユーモラスにお風呂に入ります。ちゃんと四足歩行でやってきて、お湯を出したり歌ったり。なんと言っても、オノマトベが面白い!ぼくんぼくん、うりうり、ぐにつくなつ。お風呂に入るのが楽しくなる1冊です。『わにわにのごちそう』『わにわにのおでかけ』『わにわにのおおけが』『わにわにとあかわに』とシリーズ続刊中です。

3歳



『あおくんときいろちゃん』

作／レオ・レオーニ 訳／藤田 圭雄
【出版社】至光社 【初版年月】1967



いろ／＼

あおくんときいろちゃんはとっても仲良し。でも、ある日くっつきすぎて色が混じってしまい、青でも黄色でもなくなってしまいます。さて、どうなるでしょうか？登場するキャラクターは、ちぎった色紙のようなシンプルな形ですが、子どもと大人との違いや気持ちが伝わってくる不思議な魅力があります。作者が孫のために描いたというこの絵本、混色や形の違いを楽しく鮮やかに物語にしています。



『うちゅうじんはパンツがだいすき』

文／クレア・フリードマン 絵／ベン・コート 訳／中川 ひろたか
【出版社】講談社 【初版年月】2011.2



ユーモア

あなたはパンツが好きですか？宇宙人は大好きです。どのくらい好きかという、パンツのためだけにわざわざ地球まで来てしまうくらい！パンツを見つけて大はしゃぎする宇宙人たちが、かわいくてユーモラス。身近に宇宙人がいるのでは？と思わせるストーリーにもニヤリとします。他にもパンツが大好きな「きょうりゅう」「サンタクロース」「かいぞく」などのシリーズがあります。



『おばけかな？』

作／いちかわ けいこ 絵／西村 敏雄
【出版社】教育画劇 【初版年月】2010.6



おばけ

散歩に出かけたひなこちゃんの後ろにおばけが付いてきています！橋を渡るたびに、どんどん増えるおばけに気付きそうで気付かないひなこちゃん。果たしておばけに気付くのでしょうか？ページをめくると増えるおばけの探しこもできる、ハラハラドキドキの楽しい絵本。読み聞かせる際は、前半はちょっぴりおどろおどろしく、後半はハイペースに、とメリハリを付けて読んでみましょう。



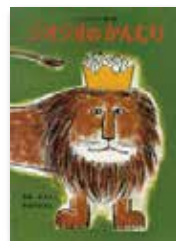
『おとまりのひ』

文／中川 ひろたか 絵／村上 康成
【出版社】童心社 【初版年月】2014.7



せいめつ

お父さんお母さんと離れて過ごす、初めてのお泊まりの日。仲良しのお友達や優しい先生と一緒に風呂に入ったり、花火をしたり、とっても楽しそう！だけど「おうちにかえりたい」って泣いちゃったりしないかな？不安になるのは子どもだけではありません。クスクス笑えるお泊まり会の夜の出来事。村上康成さん、中川ひろたかさんコンビの「ピーマン村」シリーズの1冊。幼稚園などの行事に合わせた絵本です。



『ジオジオのかんむり』

作／岸田 衿子 絵／中谷 千代子
【出版社】福音館書店 【初版年月】1978.4



おはなし

王様ライオンのジオジオは、みんなに怖がられてずっと独りぼっち。そんな中、卵を失くして悲しむ灰色の小鳥に出会います。強さと孤独の象徴だった、ジオジオの冠の使い道とは？ゆったりした言葉と明るい絵で描かれる、年長いたライオンと小鳥の交流にふんわりと優しい気持ちになります。誰かと寄り添って生きることのでられるもの、そして老いというものについても、さりげなく伝えてくれます。



『すっぱんぽんのすけ』

作／もとした いづみ 絵／荒井 良二
【出版社】鈴木出版 【初版年月】1999.11



ユーモア

タイトルの通り、ちょんまげ頭ですっぱんぽんの「すっぱんぽんのすけ」が大活躍する絵本です。すっぱんぽんのすけは、お風呂上がりにはパンツをはかせようとするお母さんの言うことを聞かずに、外へ飛び出します。そこで悪い忍者に出会ってどうするでしょうか？コミカルな展開に目が離せません。『せんとうへいくのまき』と『デパートへいくのまき』もありますので、併せてお楽しみください。



『りんごがドスン』

作・文・絵／多田 ヒロシ
【出版社】文研出版 【初版年月】1976.8



オノマトペ

大きな大きなりんごがドスン！そこにもぐらさんがやってきて「もぐもぐもぐ、おうまい」。続けてありやちよう、うさぎ、ぞう、たくさんの動物たちがやってきて、みんなでりんごを食べます。おなかがいっぱいになったところで雨が降り出して…。単純ですが夢のあるストーリーで、大人数での読み聞かせにもおすすめです。テーマ性のある絵本作品の中継ぎ役として、息抜きできる作品はいかがでしょうか。



『にゃーご』

作・絵／宮西 達也
【出版社】鈴木出版 【初版年月】1997.2



どうぶつ

ここはねずみの学校。先生がねこの怖さについて話しているのに、ちっとも話を聞かずにおしゃべりしていたこねずみ3匹は、突然「にゃーご」と言って現れた大きなねこに遭遇してしまいます。ねずみを食べようとしていたねこ、そうとは知らないこねずみたちは、なぜか一緒に桃取りに出かけるという展開に。変なおじさんねことこねずみ3匹の交流が笑いを誘います。



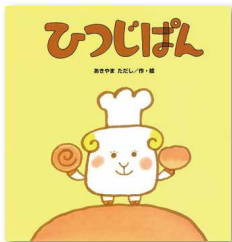
『はーくしよい』

作・絵／せな けいこ
【出版社】ポプラ社 【初版年月】2013.11



せいめつ

とっても元気なルルちゃんが突然「は は は はーくしよい！」。どうやら風邪を引いてしまったようです。セーターを着て暖かくしたり、マスクをかけたり、いろいろしますが良くなりません。風邪を引いたときはどうすれば良いのかな？「お医者さんは怖くないよ」というメッセージの込められた1冊です。ルルちゃんの豪快なくしゃみにも注目です。



『ひつじぱん』

作・絵／あきやま ただし

【出版社】鈴木出版 【初版年月】2006.5



ひつじのぱんやさんはいつも一生懸命パンを焼いています。そして、ぱんばかぱーん
とおいしそうなパンが焼けました。

パンの焼けるおいしそうな香りが読み手の方まで届いてきそうな絵本。誰のために
作ったパンかを想像しながら楽しめます。シリーズに『もっとひつじぱん』『きょうもひつ
じぱん』もあります。さあ、皆さんもひつじのぱんやさんへ「いらっしやーい」。



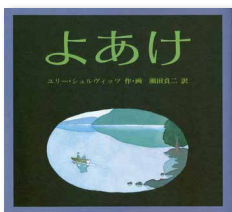
『やんすけとやんすけとやんすけと』

原作／永井 麟太郎 絵・文／梶山 俊夫

【出版社】三起商行 【初版年月】1988.5



助けたキツネからもらったのは、中に入れたものが増えるという不思議な壺。そこに息
子のやんすけが入ったから、困ったことになるのかと思いきや。いえいえ、そうでもな
いようです。躍動感ある墨字とイラストが、民話を題材に創作された物語のリズム感
ある言葉を引き立てます。子育ての苦勞も悪くないと、ラストにそんな気持ちを味わえ
る絵本です。ご家族でも、大人数の読み聞かせにもおすすめです。



『よあけ』

作・画／ユリー・シュルヴィッツ 訳／瀬田 貞二

【出版社】福音館書店 【初版年月】1977.6



湖畔で夜を明かすおじさんと男の子。夜明け前、二人はボートに乗って湖に漕ぎ出
します。朝焼けに染まる山と湖の風景が「はっ」とするほど美しく、夜から朝へと移行行
くさまを繊細に表した絵と、瀬田貞二の訳が見事に調和しています。大人にも子どもに
も心に染み入る絵本。唐の詩人柳宗元の詩「漁翁」をモチーフにした、静かな、とても
静かな世界に浸ってください。



『わたしのワンピース』

絵・文／にしきま かやこ

【出版社】こぐま社 【初版年月】1969.12



ふわふわ空から落ちてきた1枚の真っ白い布。「わたし」はこの布でワンピースを作りま
す。とても素敵にできたので、ワンピースを着て、さあ出かけです。すると不思議なことに
に、「わたし」の行った先々で、ワンピースが次々と模様を変えていきます。花畑では花の
模様、雨が降れば雨の模様、満天の星空では・・・と、心躍る展開に夢が広がります。「ミシ
ン カタカタ」「ララン ロロン」といった音のリズムも物語を楽しくしてくれます。

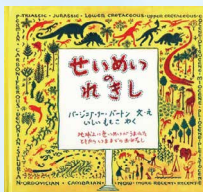
児童文学へのいざない②

『せいめいのれきし 地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし』

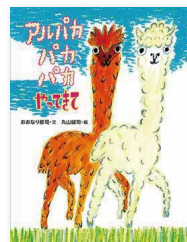
文・絵／バージニア・リー・パートン 訳／いしい ももこ 監修／まなべまこと 【出版社】岩波書店 【初版年月】2015.7(1964年発行の改訂版)

地球が生まれる前、太陽が誕生するプロローグに始まり、第1幕は古生代、と舞台仕立てに時は進み、生命
が生まれ、私たち人間が暮らす今に至るまでを描いた一大絵巻です。ページの見開き左側には各地質年
代別の代表的な生き物の進化の様子が、見開き右側には、巨大なステージに地質年代別の地球上の風景
や生き物の姿が躍動する姿が描かれます。ページをめくると、生命の進化と、時々に繁栄した生命が
変わりゆくさまを目にすることで、子どもたちは、生命の悠久の歴史を感覚的に理解します。

科学への探求の心を育むきっかけとなる絵本です。



4歳



『アルパカパカパカやってきて』

文／おおなり 修司 絵／丸山 誠司

【出版社】絵本館 【初版年月】2014.5



「アルパカパカパカやってきて アルパカパカパカひるねした」韻を踏んだ言葉のリズ
ムと、ダジャレの言葉遊びが楽しく、次へ次へとページをめくってしまいます。登場する
動物たちとのぼけた表情も愛らしい。大人数での読み聞かせにもおすすめです。一度
聞いたらすぐに覚えられるリズムカルな絵本なので、みんなで「アルパカ パカパカ
カピバラ パラ パラ」と声をそろえて楽しい時間を過ごせます。



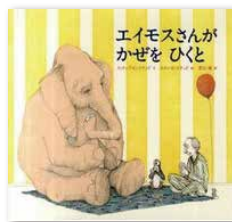
『いいからいいから』

作／長谷川 義史

【出版社】絵本館 【初版年月】2006.10



何が起こしても何をされても「いいからいいから」と、いつもおおらかなおじいちゃん。ある日の
夕方、雷の親子がやって来ましたが、おじいちゃんはいつもの調子で「いいからいいから」と
歓待します。何でも受け入れるおじいちゃんに危なっかしさを感じながらも、ほっこりと心温ま
る作品です。『いいからいいから』はシリーズ4冊まで刊行されています。雷親子の訪問のほ
かに、おじいちゃんの身に何が起こるのか気になる方はシリーズで読んでみてください。



『エイモスさんがかぜをひくと』

文／フィリップ・C.ステッド 絵／エリン・E.ステッド 訳／青山 南

【出版社】光村教育図書 【初版年月】2010.7



エイモスさんは、動物園で働いています。仕事の合間には、友達動物たちに会いに
行き、一緒に遊んでいました。ところがある日、エイモスさんは風邪を引いて動物園を
休んでしまいます。動物たちは、会いに来ないエイモスさんを心配して……。優しいエイ
モスさんの表情が魅力的。「相手を思いやること」を教えてくれる1冊です。



『おひめさまはねむりたくないけれど』

作／メアリー・ルージュ 絵／パメラ・ザガレンスキー 訳／浜崎 絵梨

【出版社】そうえん社 【初版年月】2015.3



まだ眠りたくないお姫さまに、王様とお妃さまは、やさしく語りかけます。一日が終わる
と、世界中の命が眠りにつくのよ。ネコも、コウモリも、クジラも、トラも…。
夜、寝る時間になっても「まだ寝たくないよ」という子どもに、ゆっくりと静かに眠れるよ
うに、この絵本はいかがでしょう。ページをめくると、お姫さまと一緒に少しずつ眠
りの世界に浸っていただけます。

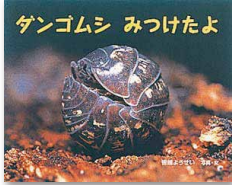


『ちいさいおうち』

文・絵／バージニア・リー・パートン 訳／石井 桃子
【出版社】岩波書店 【初版年月】1954.4



静かな田舎に住んでいたちいさいおうちは「まちにすんだら どんなきもちがするだろう」と思っていました。やがて、ちいさいおうちの周りには巨大なビルが立ち並び、車や列車が激しく行きかう街になってしまい…。一軒の家を中心にした構図に、鮮やかな色使いで季節や時の移ろいを描き出します。本当に大切なものとは何なのか。大人になってから読むと、また違う感じ方ができるかもしれません。人生で二度読んでほしい絵本です。

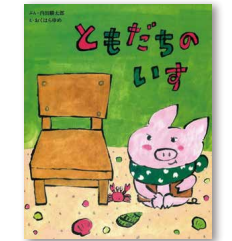


『ダンゴムシ みつけたよ』

写真・文／皆越 ようせい
【出版社】ポプラ社 【初版年月】2002.7



ダンゴムシってどんなものを食べているの？どうやって生まれるのかな？ダンゴムシのオスとメスの見分け方って？表紙の丸まったダンゴムシの写真がインパクト大！ダンゴムシの生態について、詳しく知ることができる科学写真絵本です。写真は、小さな生き物の撮影に定評のある自然写真家、皆越ようせいさん。身近な生き物への興味を持つきっかけにどうぞ。



『ともだちのいす』

文／内田 麟太郎 絵／おくはら ゆめ
【出版社】くもん出版 【初版年月】2015.10



友達が欲しいこぶたのトンちゃんは、トントントンと「ともだちのいす」を作りました。浜辺にいすを置いて待っていると、やってきたのはなんと、とらのトラキチ!!トンちゃんは怖くてたまりません。美しい夕焼けと一緒に見つめる二人は、果たして友達になれるのでしょうか？友達から大切なことを教わる…そんなやさしい絵本です。

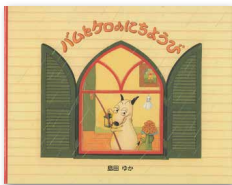


『トラさん、あばれる』

作／ピーター・ブラウン 訳／青山 南
【出版社】光村教育図書 【初版年月】2014.8



きちんとした服をきた動物たちがお行儀よく暮らす町で、トラさんだけ何やらモヤモヤ…。はじけたい!騒ぎたい!…いっそ、暴れたい!そしてある日、とうとうトラさんはやってみました!うっかりやりすぎるトラさんに笑ってしまいますが、同時にどこかうらやましい気持ちにもなります。数々の絵本の賞を受賞した絵本作家ピーター・ブラウンさんのおしゃれな絵本。人間だって時には暴れてみて？

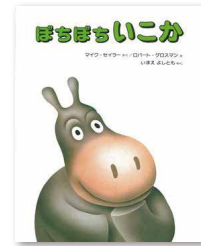


『バムとケロのにちようび』

作・絵／島田 ゆか
【出版社】文溪堂 【初版年月】1994.9



しっかりものの犬のバムと、いたずらっ子のかえるのケロ。二人は一緒に仲良く暮らしています。この日はせっかくの日曜日でしたが雨模様。ケロは部屋をきれいに掃除し始めますが…。二人の家の生活用品がとても詳細に描かれており、物語を読むだけでなく、絵の一つ一つを子どもと一緒に見るのも楽しい絵本です。「バムとケロ」のお話はシリーズ化され、現在5冊刊行されています。



『ぼちぼちいこか』

作／マイク＝セイラー 絵／ロバート＝グロスマン 訳／いまえ よしとも
【出版社】偕成社 【初版年月】1980.7



「ぼく、しょうぼうしになれるやろか」かばくんはいろんなお仕事にチャレンジしますが、体が重すぎたり、力が強すぎたりでいつも失敗ばかり…。それでも、くさらず焦らず『ぼちぼちいこか』な、かばくんに励まされます。今江祥智さんによる関西弁の邦訳が味わい深く、子ども向けのユーモア絵本でありながら、大人の方にもおすすめしたい1冊です。



『まっくろネリノ』

作／ヘルガ＝ガルー 訳／せがわ すみこ
【出版社】偕成社 【初版年月】1973.7



真っ黒な表紙の中で目に飛び込んでくるきれいな花。でも、そこにいるネリノは真っ黒なので目立ちません。きれいな色の兄さんたちから真っ黒だからと仲間はずれにされるネリノですが、ある日その色が役に立つ時が来ます。他と違う個性も活かす場所や機会があると、さりげなく元気づけてくれるこの絵本。パステル調の鮮やかな色が映えて見えますが、それも背景の黒あってこそですね。



『みんなうんち』

作／五味 太郎
【出版社】福音館書店 【初版年月】1981.9



大きさも色も形も違う、いろんな動物の色んなうんちが出てきます。何かを食べて生きる動物にとって排泄は当たり前のこと。大人はちょっと敬遠してしまいがちですが、子どもにとって自分の体を知ることは大切なことです。きれいな色使いの絵とリズムカルな文章で楽しく読めますよ!「蛇のおしりの位置」と「くじらのうんち」についても、ぜひ調べてみましょう。



『めっきらもっきらどおんどん』

作／長谷川 摂子 画／ふりや なな
【出版社】福音館書店 【初版年月】1990.3



「めっきらもっきらどおんどん!」かんだがでたらめな歌を歌うと、何やら声が聞こえてきました。声のする方へ行ってみると、そこには不思議な世界の入り口が。ちょっと怖いけどへんでこな3人組と一緒に、かんだは不思議な世界で夢中になって遊んでしまいます。でも、ふとおうちが恋しくなって…。いくつになっても不思議な世界には憧れますね。読んだ後は、きっとあの歌を歌いたくなります。



『ラチとらいおん』

文・絵／マレーク・ペロニカ 訳／とくなが やすとも
【出版社】福音館書店 【初版年月】1965.7



世界で一番弱虫な男の子ラチ。ある日、ラチの前に小さな赤いらいおんが現れました。見た目はかわいけれど、とっても強いらいおんの特訓で、ラチは少しずつ強くなっていきます。ハンガリーの絵本作家マレーク・ペロニカさんによるかわいらしい絵。少ないながらも鮮やかな色使いがとても印象的です。最後の手紙には思わず涙が。大人の方にもぜひ。

5歳



『あさになったのでまどをあけますよ』

著／荒井 良二

【出版社】偕成社 【初版年月】2011.12



さほう

窓を開けると、いつもと同じ風景が広がっていて、そこには大切な暮らしがある。2011年の東日本大震災の後に、作者が思いを込めて描きあげた絵本です。色鮮やかな絵によって、生きる希望が感じられ、励まされます。「やっぱり わたしは ここがすき」の言葉は、明日に向けて明るい気持ちになり、何げない日々の生活にある幸せや喜びをあらためて実感させてくれます。



『うえきばちです』

作／川端 誠

【出版社】BL出版 【初版年月】2007.9



ことばあそび

「うえきばちです めがでした はながさきました はがでした」文字にしたらそのままで、これが絵になると…? ダジャレが楽しい言葉遊びの絵本。川端誠さんのダイナミックな絵が印象的です。4歳くらいから読んでも楽しめますが、すんなり理解できるには5歳くらいからでしょうか。大人数での読み聞かせでも楽しめます。



『ええところ』

作／くすのき しげる 絵／ふるしょう ようこ

【出版社】学研教育出版 【初版年月】2012.1



ともだち

「わたして、ええところがひとつもないなあ」と悩むあいちゃん。友達のともちゃんは、「手が誰よりも温かいところ」と、あいちゃんの「ええところ」を教えてください。ともちゃんのやさしさや思いやりが、味のある関西弁によって、より温かい気持ちにさせてくれます。周りの人の「ええところ」を見つけてみたくなる絵本です。



『おうちにいれちゃだめ!』

作／ケヴィン・ルイス 絵／ディヴィッド・エルコリーニ 訳／長友 恵子

【出版社】フレーベル館 【初版年月】2013.7



かぞく

外で探検をして過ごすのが好きな男の子リヴィングストン。ムシ・ネズミ・ブタと、次々に家に連れ帰ってきます。その都度、ママに「おうちにいれちゃだめ!」と言われますが、連れ帰る動物たちはどんどん大きくなって、最後には「ええっ」と驚くようなもので…。二人のやりとり、思わず「リヴィングストン頑張っ!」と声援を送りたくなります。果たしておうちに入れることができた動物は何だったのでしょうか?



『おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん』

作／長谷川 義史

【出版社】BL出版 【初版年月】2000.7



かぞく

ある日、5歳の男の子がおじいちゃんに尋ねます。「おじいちゃんのおとうさんはどんなひと?」。おじいちゃんのお父さんは、ひいおじいちゃん、そのまたお父さんは、ひいひいおじいちゃん…と時代はぐんぐんさかのぼり、延々と続いていきます。でも、最後にまた新たな疑問が。子どもが抱いた素朴な疑問がテーマになった絵本です。



『きょうはなんのひ?』

作／瀬田 貞二 絵／林 明子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1979.8



かぞく

女の子がお母さんに用意したのは、赤いひもを結んだ手紙です。一つずつ手紙を見つけて、たどり着いた先には、いったい何があるのでしょうか。喜んでもらいたい記念日に、とおきのプレゼント。手紙に隠されたメッセージにも驚かされます。読みながら、どこに手紙があるのかを一緒に探してみてもいいですね。

さあ、きょうはなんのひ?



『こんとあき』

作／林 明子

【出版社】福音館書店 【初版年月】1989.6



おはなし

あきが生まれたときからのお友達、キツネのぬいぐるみのこん。こんの破れた腕を直してもらうため、二人で汽車に乗っておばあちゃんの家に行くことになります。初めての旅はドキドキハラハラすることだらけ。でも、最後はほっと一安心。何があってもあきを安心させ守ろうとするこんとの道中で成長していくあき。優しい絵で描かれる、いじらしい二人の絆に心が温くなる絵本です。



『しりとりのだいすきなおうさま』

作／中村 翔子 絵／はた こうしろう

【出版社】鈴木出版 【初版年月】2001.6



ことばあそび

しりとり大好きな王さまは、何もかもがしりとの順でないと気がすみません。食事もしりとの順にしようとする王さまに家来たちは大弱り。そんなある朝、家来たちが王さまに差し出した食べ物…? しりとりがたくさん出てくる楽しい絵本。表紙を見ながらしりとり遊びもでき、読み聞かせにも最適です。語彙が増えてくる5歳ころにおすすめです。



『どうするジョージ!』

作／クリス・ホートン 訳／木坂 涼

【出版社】BL出版 【初版年月】2014.12



ユーモア

犬のジョージはお留守番。「いいこにしています!」って言ってたけど…えーっ!? 「いけない」とわかっていることをしつつしてしまうジョージが、かわいいうやうに憎めないやう。でも、ちゃんと約束を守れた時には褒めてくれるのが、この絵本の優しいところ。作者のクリス・ホートンさんはアイルランド出身。独特な色使いが目を引きまゝ。同じく木坂涼さん訳の『ちょっとだけまいご』『しーっ! ひみつのさくせん』もおすすァめです。



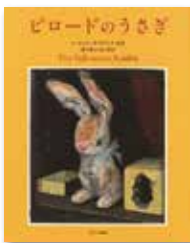
『ねこのピート だいすきなしろいくつ』

作/エリック・リトウィン 絵/ジョームス・ディーン 訳/大友 剛 文字画/長谷川 義史
【出版社】ひさかたチャイルド 【初版年月】2013.5



リズム

ねこのピートは新しい白い靴でお出かけ。ところが、いちごの山に登ってピートの白い靴は真っ赤に!でも、ピートは泣いていません。「かなりさいこう!」と、どんなことが起きても前向きに歌います。アメリカで「歌える絵本」としてロングヒットを続ける、元気で前向きになれる絵本。シリーズは「だいすきなよつつのボタン」「はじめてのがっこう」と続刊中です。



『ビロードのうさぎ』

原作/マージェリィ・W.ビアンコ 絵/抄訳/酒井 駒子
【出版社】ブロンズ新社 【初版年月】2007.4



おはなし

クリスマスにもらったビロードのうさぎは、ぼうやの一番の友達になりました。ぼうやはビロードのうさぎのことを「ほんもの」と言いますが、森のうさぎはビロードのうさぎのことを「ほんものじゃない」と言います。「ほんもの」とはなんでしょう。やがて、ビロードうさぎとぼうやにお別れの時がきます。そこで起こる、子ども部屋の魔法とは…。古典名作絵本に新たに酒井駒子さんが絵を描いた、やさしくてちょっぴり切ない物語。



『ぶたばあちゃん』

文/マーガレット・ワイルド 絵/ロン・ブルックス 訳/今村 葦子
【出版社】あすなろ書房 【初版年月】1995.9



かぞく

ぶたばあちゃんと孫娘は二人で協力しながら、元気に仲良く暮らしていました。しかし、ある朝、ぶたばあちゃんの様子に変化が…。別れの準備をするぶたばあちゃんと、その気配を感じながら傍らに寄り添う孫娘との絆が胸を打ちます。「死」をテーマに扱っていますが、柔らかいタッチで描かれた風景と二人のあどけない表情が、このテーマを温かく包み込んでいます。子どもでも、心に深く残る何かを感じ取ってくれることでしょう。



『としょかんライオン』

作/ミシェル・ヌードセン 絵/ケビン・ホークス 訳/福本 友美子
【出版社】岩崎書店 【初版年月】2007.4



おはなし

ある日、図書館にライオンがやって来ました。図書館を利用する人達は、最初はライオンを怖がっていましたが、図書館のルールを守って図書館の人の手伝いをするライオンの姿を見て、次第に親しみを抱いていきます。しかし、ある日、ちょっとした事件が…。図書館での勤務経験のある作者が、誰でも利用できる場所として図書館を描いた作品。ルールは必要だけれども、みんな一緒に楽しむためにはどうしたらいいか考えたい1冊です。

児童文学へのいざない③

『ぼくを探しに』

作/シルヴァスタイン 訳/倉橋由美子 【出版社】講談社 【初版年月】1977.4

「何かが足りない」と思ったぼくは、足りないかけらを探しに行きます。晴れの日、雨の日、雪の日、ぼくは、不器用にも転がりながら、新しい世界を見つけていきます。そして、とうとう、ぼくにピッタリのかげらを見つけたけれど…。一本線で描かれたモノクロの絵。シンプルではあるけれども、さまざまな意味を読み取ることができる奥深い物語に、本の持つ力を感じることができます。自分の考え方や置かれた立場によって、この物語について思うことはそれぞれ異なるでしょう。このことがさらに想像力を掻き立て、自分だけの物語を作り上げるきっかけとなるかもしれません。



北海道・札幌にゆかりのある作家の絵本

ここでは、北海道や札幌にゆかりのある絵本作家とその作品を紹介します。

北海道や札幌にゆかりのある絵本は、この土地独特の気候や風土などを取り上げた、

子どもにとって身近な話題が多くあります。

子どもたちも、より親しみを持って絵本を楽しむことができるでしょう。



『いつも いっしょ』

作/かさい まり
【出版社】くもん出版 【初版年月】2009.7

北海道生まれの絵本作家。やわらかいタッチのかわいらしい動物たちの作品が魅力的です。



『ゆき』

作/きくち ちき
【出版社】ぼるぶ出版 【初版年月】2015.11

本別町生まれ、帯広育ちの絵本作家。ブラティスラヴァ世界絵本原画展での受賞歴有。この絵本は北海道の原野に降る雪をイメージして描いたものです。



『あらしのよるに』

作/木村 裕一 絵/あべ 弘士
【出版社】講談社 【初版年月】1994.10

作画のあべ弘士さんは旭川出身。旭山動物園で飼育係として勤務していました。同書で講談社出版文化賞絵本賞等を受賞。この他、受賞多数あり。動物の絵本を多く描いています。



『おばけのケーキ屋さん』

絵・文/SAKAE
【出版社】マイクロマガジン社 【初版年月】2013.12

北海道在住の絵本作家。大学在学中にイラスト投稿サイトに掲載した同作品が話題となりデビュー。



『まあちゃんのながいかみ』

作/たかの ほこ
【出版社】福音館書店 【初版年月】1995.8

函館出身、札幌在住の絵本作家。路傍の石幼少年文学賞、産経児童出版文化賞等、受賞多数。「つんつくせんせい」シリーズ、「ゆかいなさんにんきょうだい」シリーズ等があります。



『しまふくろうのみずうみ』

絵・文/手島 圭三郎
【出版社】福武書店 【初版年月】1982.3

紋別出身の絵本作家。この絵本で「絵本にっぽん賞」を受賞。北海道の自然や生き物を力強く描いた作品が数多くあります。



『おばけのマールとみんなのとしょかん』

絵/なかい れい 文/けーたろう
【出版社】中西出版 【初版年月】2015.12

作画のなかいれいさんは札幌在住。円山動物園や時計台など札幌を舞台にした「おばけのマール」シリーズが子どもたちに人気です。



『にこにこぎゅっ』

絵・文/ひだの かな代
【出版社】中西出版 【初版年月】2009.7

札幌育ち、札幌在住の絵本作家。『ねこがさかなをすきになったわけ』でけんぶち絵本の里大賞でびばからす賞受賞。ラジオのパーソナリティーとしても活躍。



『あかいじどうしゃよんまるさん』

作/堀川 真
【出版社】福音館書店 【初版年月】2012.1

紋別出身の絵本作家。旭川で美術や木工を学び、絵本のほか、さし絵画家としても活躍しています。

INDEX

【ジャンル】

あそび

いないいないばあ 1
だるまさんが 5
びよん 6
きんぎょがにげた 7
へんなかお 9

いろ・かたち

しましまぐるぐる 2
かにこちゃん 5
あおくんときいろちゃん 10

オノマトペ

じゃあじゃあびりびり 3
もこもここ 3
りんごがドスーン 11

おばけ

おばけかな? 10
めっきらもっきらどおんどん 15

おはなし

ジオジオのかんむり 11
わたしのワンピース 12
ちいさいおうち 14
トラさん、あばれる 14
パムとケロのにちょうび 14
まっくろネリノ 15
ラチとらいおん 15
こんとあき 17
ピロードのうさぎ 18
としよかんライオン 18

かがく

ダンゴムシみつけたよ 14
みんなうんち 15

かぞく

おうちにいれちゃだめ! 16
おじいちゃんのおじいちゃん 17
おじいちゃんのおじいちゃん 17
きょうはなんのひ? 17

きぼう

あさになったのでまどをあけますよ 16

しぜん

よあけ 12

ことば・かたち

まるさんかくぞう 6

ことばあそび

おやおや、おやさい 4
しっぽがびん 8
うえきばちです 16
しりとりのだいすきなおうさま 17

コミュニケーション

おててたっち 1
くつついた 2
どんどこもんちゃん 5
はいー! 6
ぎゅっ 7
びよちゃんのかくれんぼ 9
まるまるまるのほん 9

せいかつ

おててがでたよ 1
きゅっきゅっきゅっ 2
くつくつあるけ 2
くらいくらい 2
ばいばいできるかな 3
もうおきるかな? 3
おさじさん 4
おつきさまこんばんは 4
おふろでちゃぶちゃぶ 4
ねないこ だれだ 5
れいぞうこ 6
おとまりのひ 10
はーくしよい 11
おひめさまはねむりたくないけれど 13

たべもの

やさいさん 3
おにぎりくんがね 7
くだもの 7
しろくまちゃんのほっとけーき 8
にんじんさんがあかいわけ 8
りんごころころ 9
ひつじぼん 12

どうぶつ

ぞうくんのさんぼ 8
わにわにのおふろ 9
にゃーご 11
エイモスさんがかぜをひくと 13

ともだち

ともだちのいす 14
ええところ 16

のりもの

がたんごとんがたんごとん 1
のりものいっぱい 5
でんしゃにのって 8

ユーモア

うちゅうじんはパンツがだいすき 10
すっぽんぼんのすけ 11
やんすけとやんすけとやんすけと 12
いいからいいから 13
ぼちぼちいこか 15
どうするジョージ! 17

リズム

アルパカパカパカやってきて 13
ねこのビートだいすきなしろいくつ 18

【あ】

あおくんときいろちゃん 10
あさになったのでまどをあけますよ 16
アルパカパカパカやってきて 13

【い】

いいからいいから 13
いないいないばあ 1

【う】

うえきばちです 16
うちゅうじんはパンツがだいすき 10

【え】

エイモスさんがかぜをひくと 13
ええところ 16

【お】

おうちにいれちゃだめ! 16
おさじさん 4
おじいちゃんのおじいちゃん 17
おつきさまこんばんは 4
おててがでたよ 1
おててたっち 1
おとまりのひ 10
おにぎりくんがね 7
おばけかな? 10
おひめさまはねむりたくないけれど 13
おふろでちゃぶちゃぶ 4
おやおや、おやさい 4

【か】

がたんごとんがたんごとん 1
かにこちゃん 5

【き】

ぎゅっ 7
きゅっきゅっきゅっ 2
きょうはなんのひ? 17
きんぎょがにげた 7

【く】

くだもの 7
くつくつあるけ 2
くつついた 2

INDEX

【五十音順】

くらいくらい 2

【こ】

こんとあき 17

【し】

ジオジオのかんむり 11
しっぽがびん 8
しましまぐるぐる 2
じゃあじゃあびりびり 3
しりとりのだいすきなおうさま 17
しろくまちゃんのほっとけーき 8

【す】

すっぽんぼんのすけ 11

【そ】

ぞうくんのさんぼ 8

【た】

だるまさんが 5

【ち】

ちいさいおうち 14

【て】

でんしゃにのって 8

【と】

どうするジョージ! 17
としよかんライオン 18
ともだちのいす 14
トラさん、あばれる 14
どんどこもんちゃん 5

【に】

にゃーご 11
にんじんさんがあかいわけ 8

【ね】

ねこのビートだいすきなしろいくつ 18
ねないこ だれだ 5

【の】

のりものいっぱい 5

【は】

はいー! 6
はいくしよい 11

ばいばいできるかな 3

パムとケロのにちょうび 14

【ひ】

ひつじぼん 12
びよん 6
びよちゃんのかくれんぼ 9
ピロードのうさぎ 18
ぶたばあちゃん 18

【へ】

へんなかお 9

【ほ】

ぼちぼちいこか 15

【ま】

まっくろネリノ 15
まるさんかくぞう 6
まるまるまるのほん 9

【み】

みんなうんち 15

【め】

めっきらもっきらどおんどん 15

【も】

もうおきるかな? 3
もこもここ 3

【や】

やさいさん 3
やんすけとやんすけとやんすけと 12

【よ】

よあけ 12

【ら】

ラチとらいおん 15

【り】

りんごがドスーン 11
りんごころころ 9

【れ】

れいぞうこ 6

【わ】

わたしのワンピース 12
わにわにのおふろ 9